

消化器系疾患

科目責任者 入澤篤志
学年 6学年

I. 前 文

本講義は、消化器関連臓器の主たる疾患について、その病態・診断・治療の重要事項を中心に、国家試験対策を念頭においた講義を行う。各々、内科・外科の両面から理解を深める内容としている。また、病理の理解を深めることも重要であり、「消化器疾患の病理」として1枠を設けている。

なお事前学習資料を基に、しっかりと予習して講義に臨むことが望ましい。

II. 担当教員

教授	入澤篤志	内科学（消化器）
教授	小嶋一幸	外科学（上部消化管）
教授	水島恒和	外科学（下部消化管）
教授	青木琢	外科学（肝・胆・膵）
教授	曾我茂義	放射線医学
教授	石田和之	病理診断学

III. 学修の到達目標

講義や実習で履修した消化器病学の知識を整理し、成因、病態、検査、治療、予後などを総合的に理解して、医師国家試験に出題される一般問題、臨床問題に正答できるレベルの学力を修得する。

IV. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前に3年時の臓器別講義の資料に目を通し、知識を整理し、不明の項目は教科書や参考書で確認する。また、消化器領域に関する過去の卒業試験問題や医師国家試験問題などを参照し、知識を整理する。事前学習に30分、事後学習に30分は必要である。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	7	9	木	6	ウイルス性肝炎／肝腫瘍の診断と内科的治療（内科）	内科学（消化器） 飯島 誠	1
2		10	金	1	下部消化管の外科的治療と化学療法（外科）	外科学（下部消化管） 水島恒和	1
3		10	金	2	胃・十二指腸の外科的治療と化学療法（外科）	外科学（上部消化管） 小嶋一幸	1
4		10	金	3	肝胆膵の画像診断	放射線医学 曾我茂義	1
5		10	金	4	自己免疫性／薬物性／代謝性肝疾患の診断と治療（内科）	埼玉医療センター消化器内科 曾我幸一	1
6		10	金	5	胆道疾患の診断と内科的治療（内科）	内科学（消化器） 入澤篤志	1
7		10	金	6	膵疾患の診断と内科的治療（内科）	内科学（消化器） 入澤篤志	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
8	7	13	月	1	肝疾患の外科的治療と化学療法（外科）	外科学（肝・胆・膵） 青木 琢	1
9		13	月	2	胆膵疾患の外科的治療と化学療法（外科）	外科学（肝・胆・膵） 青木 琢	1
10		13	月	3	消化器疾患の病理	病理診断学 石田 和之	1
11		13	月	4	食道の外科的治療と化学療法（外科）	外科学（上部消化管） 中島 政信	1
12		13	月	5	上部消化管良性疾患の診断と治療（内科）	内科学（消化器） 入澤 篤志	1
13		13	月	6	炎症性腸疾患の診断と治療（内科）	内科学（消化器） 富永 圭一	1
14		14	火	1	消化管腫瘍の診断と内視鏡的治療（内科）	内科学（消化器） 新任 教員	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

客観的評価として国家試験形式に準じた試験を課し、原則として60%の正答率をもって合格とする。

VII. 医師国家試験出題基準（令和6年版）

必修-7-A-全項目

必修-7-E-全項目

必修-8-A, B, C, D, G, H-全項目

必修-9-C-全項目

必修-9-F-①②③, G-①②, H, I, J, K, L, O-全項目

必修-11-C-⑫⑬⑭⑯

必修-12-G-全項目

必修-13-A-①②③④⑤⑥⑦⑧

総論（Ⅲ 人体の正常構造と機能）-5-A, B, C, D-全項目

総論（Ⅴ 病因, 病態生理）-6-A, B, C-全項目

総論（Ⅵ 症候）-1-A～K-全項目, -5-A～J-全項目

総論（Ⅶ 診察）-1-A-①②⑤⑦⑧, -1-B-①②⑦⑧⑨⑬,

総論（Ⅷ 検査）-1-A-①②③⑤⑥, -B-①②⑤, -C-①②③, -D-全項目, -E-①②③④⑪, -F-①②⑥, -G-全項目

総論（Ⅷ 検査）-2-C・D・E-全項目,

総論（Ⅷ 検査）-6-A・G・H-全項目, -J-②③, -K-⑥, -L-②③, -M-④⑤, -Q-②④⑤

総論（Ⅷ 検査）-7-A-全項目, -B-⑥⑦⑧⑨⑩, -C-全項目

総論（Ⅸ 治療）-A-④, -2-F-⑤⑧⑨⑩⑪⑬⑭

総論（Ⅸ 治療）-3-C-③

総論（Ⅸ 治療）-4-A～D-全項目

総論（Ⅸ 治療）-6-I-②

総論（Ⅸ 治療）-7-A・B-全項目

総論（Ⅸ 治療）-8-A-全項目

総論（Ⅸ 治療）-10-A-⑥⑦⑫⑬⑮⑯⑰, -B-①, -C-⑤⑥

総論（Ⅸ 治療）-11-B-③④⑤

各論（Ⅵ 消化器・腹壁・腹膜疾患）-1～12-全項目

各論（Ⅵ 消化器・腹壁・腹膜疾患）-1～12-全項目

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について、間違いや誤解が多い点を随時解説する。